

International Symposium on Performing Arts 2017

2017
国際シンポジウム
実演芸術

全国の子どもたちへ芸術体験を届けるために



How we can reach
Children and Young Audiences
throughout the Country

at International House of Japan

2017 12.7 Thursday 13:30-16:30 国際文化会館講堂にて

実演芸術国際シンポジウム2017

全国の子どもたちへ 芸術体験を届けるために

2017年12月7日(木) 13:30-16:30

会場 = 国際文化会館講堂 (東京都港区六本木5-11-16)

都営地下鉄大江戸線「麻布十番」駅 出口7より徒歩5分

参加無料(要申込み/定員100名) ※日英同時通訳あり

主催:文化庁/公益社団法人日本芸能実演家団体協議会[芸団協]
協力:アシテジ日本センター/TYA Japan/日本児童青少年演劇劇団同組合
後援:国際交流基金/(公社)全国公立文化施設協会/劇場、音楽堂等連絡協議会
(公社)日本劇団協議会/(一社)日本演出者協会/(一社)日本劇作家協会
スウェーデン大使館/アルゼンチン共和国大使館 ※公認文化オリンピックアード

児童青少年のための舞台芸術の世界的ネットワークである ASSITEJ(アシテジ/国際児童青少年演劇協会)。

2020年、その世界大会が、日本で開催されます。これをひとつの契機としながら、

演劇などの生の芸術を全国の子どもたちへ届けるために、芸術団体、劇場・ホールは、どう取り組んでいけるでしょうか。

スウェーデン、アルゼンチンの国内巡回公演の制度や支援の仕組みを共有し、

日本の児童青少年演劇の歴史も振り返りながら、現在の課題とこれからの展開を考えます。

パネリスト

ニコラス・マルムクローネ | Niclas Malmcrona (スウェーデン)



アシテジ・スウェーデン理事。舞台芸術プロデューサーとして30年以上にわたり活動し、世界各地で国際ワークショップ、セミナー、フェスティバルに携わる。1999年～2008年には、アシテジの世界事務局長を務め、2011年5月にマルメとコペンハーゲンにて、第17回アシテジ世界大会と舞台芸術フェスティバルを開催。Bibu(スウェーデン児童・青少年舞台芸術ビエンナーレ)の創始者。現在はストックホルム市立劇場との仕事もしている。

マリア＝イネス・ファルコーニ | María Inés Falconi (アルゼンチン)



劇作家、児童青少年文学作家。アシテジ・アルゼンチン事務局。アシテジ名誉会員。短編・小説が国内外で上演・出版される他、戯曲は国内外での受賞作も多数。ベルグラノ大学、ブエノスアイレス演劇学校で演出・劇作を指導。ほか各国で様々なワークショップ、講義などを行う。また、国際プロジェクトとして、社会的問題などを取り上げるワークショップにも携わる。2005年～2014年はアシテジの世界理事、最後の2期は副会長を務めた。

太田 昭 | Akira Ota (日本)



日韓演劇交流センター事務局長。日本児童・青少年演劇劇団同組合(児演協)副代表理事。1996年、東京演劇アンサンブル(TEE)入団。以後ほとんどの作品の制作に関わる。児演協の人材育成担当として、これまでに5大陸20ヶ国を越える国々の児童青少年舞台芸術の関係者を招き、講座・ワークショップを企画・実施している。2004年、文化庁芸術家在外研修員としてスウェーデン・ウナガリクスへ短期留学。

横山 歩 | Ayumi Yokoyama (日本)



KAAT 神奈川芸術劇場制作課長。早稲田大学第一文学部演劇専修卒業。出版社勤務、舞台技術者の経験を経て1996年(公財)神奈川芸術文化財団に入職。演劇公演の制作、ソフト先行人材育成事業「ASK～かながわ舞台芸術工房」などに携わる。以降、財団所管の各施設にて施設管理、経理、予算策定など管理系業務にも従事し、2014年KAAT制作課に配属、事業制作の傍らマネジメント業務を担当。2017年より現職。

モデレーター

大谷賢治郎 | Kenjiro Otani (日本)



演出家。劇団 company ma を主宰。サンフランシスコ州立大学芸術学部演劇科卒業。演出活動を中心に、東京国立博物館や川崎市アートセンター、文化庁派遣事業、そしてアシテジ国際児童青少年演劇協会等の活動を通して、国内外の児童演劇活動と演劇教育にも力を注ぐ。アシテジ世界理事。桐朋学園芸術短期大学芸術科非常勤講師。東京大学大学院総合文化研究科・教養学部附属共生のための国際哲学研究センター研究協力者。

事業概要

文化庁「実演芸術連携交流事業」とは

この事業は、国内外のプロデューサー、アートマネジメント人材、舞台スタッフ、実演家等の人材交流の促進を通じて、芸術文化を支えるグローバル人材の育成と、国内外への発信力の強化を図り、実演芸術のますますの振興につなげることを目的としています。国内での実務研修の機会を提供する「国内専門家フェロシップ制度」、芸術団体と劇場・音楽堂等との相互ネットワークの強化と情報交流をめざす「実演芸術連携フォーラム」「実演芸術国際シンポジウム」の3つの取組を実施しています。

<https://www.geidankyo.or.jp/renkeikoryu/>

申込方法 メール entry@geidankyo.or.jp FAX 03-5353-6614

下記申込欄と同様の必要事項を明記してお送りください。

下記申込欄にもれなくご記入の上お送りください。

申込締切 2017年12月1日(金)

- ◆複数名の申込みは、全員の名前、必要事項(担当職務・役職など)をもれなく明記してください。
- ◆申込締切後の参加申込や変更については、担当までご連絡ください。◆当日は取材、記録撮影を行います。
- ◆頂いた個人情報は、今後の同種の芸団協関連事業のご案内に使用させていただきます。

FAX申込フォーム

ふりがな	ご所属(団体名・館名)	ご担当職務・役職
お名前		
E-mail	TEL	FAX